

【「教育支援プランA・B」記入例】 教育支援プランA（個別の教育支援計画）

特別な教育的 ニーズ	<p>言葉を理解する力はあるが、それを留めておくことが難しいために、言葉だけの指示では理解が難しく、行動に移せないことがある。集中の持続が短い。言葉を通して人とやりとりする力が弱いために、トラブルを起こしてしまうことがある。</p> <p>従って、絵や写真、文字等の視覚情報を添えて伝えることが必要である。目標設定を細切れにし、達成感を味わいながら集中の持続を伸ばしていく。良好な人間関係を形成するための手立てを身に付けることが必要である。支援に当たっては、行動を止め、指示を出すこと。小さなことでもできたことを具体的に褒め、意欲につなげる。否定的な表現はできるだけ避け、「するといいい」「するとかっこいい」という表現をすると理解しやすい。</p>			
(追加)				
本人・保護者の 願い	<p>・様々な経験をし、充実した学校生活を送ってほしい。・良好な友人関係を形成したい。</p> <p>・活動に少しでも長く取り組めるようになってほしい。</p>			
合理的配慮の 実施内容	<p>活動に見通しを持ち、集中して取り組める時間が長くなるよう、視覚を活用した情報を提供する。また、活動をスモールステップで設定し、達成できる体験を増やすことで、自信を高め、友達から認められる機会の増加に努める。</p>			
(追加)				
教育機関の 支援	目標・機関名	支援内容	評価	
	所属校	適切な表出言語を身に付け、良好な人間関係を形成する。	ソーシャルスキルトレーニングを活用し、人とのかかわり方を身に付ける。相手や場に応じた言葉遣いで話す場を意図的に設定する。	授業の演習では、適切な言葉を使用することができた。日常生活においては学んだことを生かした人とのかかわりが難しい。日常生活に生かされるよう指導を継続していく。
	(追加)			
	就学支援委員会の助言内容	市就学支援委員会		
	(追加)			
支援籍、交流 及び共同学習	気持ちや行動をコントロールする。特別支援学校	特別支援学校において自立活動の指導を実施。		
(追加)				
関係機関の 支援	機関名	支援内容		
	医療・保健	病院	平成 年 月 日受診、面接、子供の観察を行う。検査結果は、児童相談所で行ったものを持参。広汎性発達障害と診断。月1回面接。	
	(追加)			
	福祉・労働	児童相談所	平成 年に発達に係る検査を受ける。	
	(追加)			
家庭・地域	放課後児童クラブ	保護者が作成したサポートブックを参考に支援。また 特別支援学校のコーディネーターから支援について指導・助言をもらう。		
(追加)				
本人の プロフィール	障害の状況	広汎性発達障害、手帳なし		
	生育歴 療育歴 教育歴	1歳半健診、3歳児健診での指摘はない。 保育所に8カ月から入所。1歳までは子供の個性として捉えていたが、2歳児クラス以降は支援が必要な子供だと言われることが多くなった。		
	相談歴 諸検査	<p>教育センター</p> <p>WISC - 検査日:平成 年 月 日 生活年齢: 歳 カ月</p> <p>全検査IQ: 言語理解指標: 知覚推理指標: ワーキングメモリー指標: 処理速度指標: 言語理解、知覚推理、全検査平均域。ワーキングメモリーと処理速度とに有意な差が見られる。</p>		
	その他			

教育支援プラン B（個別の指導計画）

指導方針	<p>集中できる時間が短く、離席をしてしまうのは、言葉での指示では理解することが難しかったり、姿勢を保持する力が弱かったりするためであると考え。そのため本人がわかる支援を行うことにより、自信をもち、意欲的に学習に取り組めるようにする。姿勢の保持に関しては身体の部位を意識させ姿勢を保持する力を付けていく。また、活動の順番や見通しを示すことにより、気持ちをコントロールする力を付ける。</p> <p>言葉で相手に伝えることが難しいために、手が出てしまう等のトラブルになってしまうと考える。そのため、適切な表出言語を身に付けることにより、良好な人間関係を形成できる力を付けていく。</p>		
指導に結びつく実態			
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)	閉ざされた空間で大きな音が鳴ると不安になる。気持ちの切り替えが難しく、次の行動に移るまでに時間がかかる。		
3 人間関係の形成 (人とのかかわり、集団への参加など)	人とかかわりたい気持ちはあるが、どのように接していいのかわからず、一人で遊んでいることが多い。気持ちが乗っていれば集団への参加はできる。		
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)	<p>離席や、授業とは関係ない行動をとることはあるが、挙手が多く、積極的に学習に取り組む。15分程度ならば、集中できる。</p> <p>取組にムラはあるが、理解する力はある。言葉による指示が入りにくく、周囲の状況を見て行動を起こしていることが多い。視覚情報で伝えると分かる。集中が続かないため制限時間の中でテストを行うことが難しい。</p> <p>宿題、提出物等といった約束事を覚えておくことや持ち物の管理が苦手である。注意をされた時は反省し「次からきちんとやります。」などと言えるが、定着が難しい。</p> <p>カードを手がかりとして係の仕事を手順どおり実行できる。</p>		
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)	<p>ボール投げや鉄棒は苦手だが、走ることは好き。持久力が弱く、疲れやすい。手先は器用で、細かい作業が得意。</p> <p>集会等で立ち続けることが難しい。</p>		
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	相手に応じた言葉遣い課題はあるが、おしゃべりすることが好きである。友達とかかわりたい気持ちはあるのだが、気持ちがたかぶってしまい攻撃的な話し方になってしまう。言葉で気持ちを伝えることより行動が先になってしまうので誤解されやすい。人なつっこく大人に甘えることが多い。		
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	見通しを持って行動することが苦手なためトラブルになることはあるが、基本的には優しく、人のために何かしてあげたいという気持ちはある。歴史が好き。興味のあるものが目に入ると、今やるべきことに取り組めなくなる。		
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法(手だて)	評価
各教科	自信を持って、意欲的に取り組む力を付ける。	「少しでもできたこと」に対し、すぐに良かった内容を具体的に示し褒める。挙手した際、指されなくても怒らず我慢できたらすぐに褒める。	具体的に褒めることにより、学習に集中できる時間が長くなってきた。苦手な算数に取り組み、答えが間違っていたても再度取り組む姿勢が見られた。
自立活動	授業に集中して取り組む力を付ける。	各授業の目標と流れについてカードで見通しを持ち、終了後、自己評価と教師の評価欄に記入する。下校前に1日の学習態度を振り返る。	時間前に授業の目標と流れを確認することがほぼ自分からできるようになった。興味のある社会や得意な図工(工作)は特に集中できる時間が長くなった。今後も継続する。